

2013年3月期 決算説明会

2013年 5月16日



本日のプレゼンテーション

- 2013年3月期 連結決算概要
- 2014年3月期 連結業績見通し
- 中期イメージ、重点課題
- セグメント別業績見通し
- 設備投資、財務状況

(億円)	12年3月期	13年3月期	前期比
売上高	2,489	2,450 2,528	+2%
営業利益	265	180 207	△22%
経常利益	291	190 220	△24%
当期純利益	△354	100 114	—

前期実績は、会計方針の変更を反映した過去適用後の数値

□ は13年1月公表値

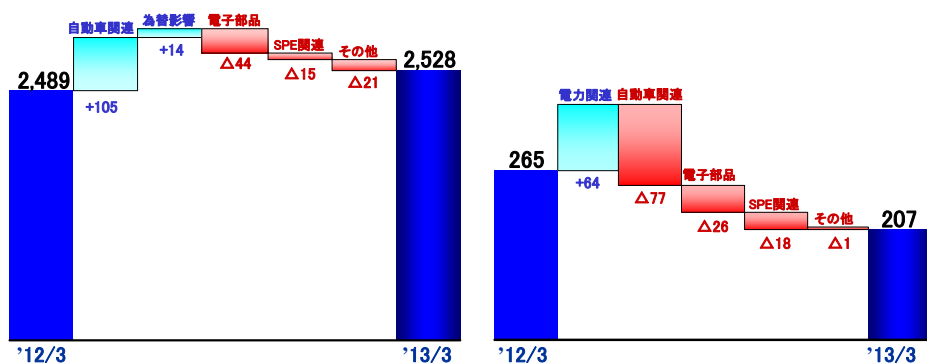
前期比増収減益 当期純利益は黒字化

- セラミックス 自動車関連の需要は堅調も増産投資の費用等が先行し減益。
エレクトロニクス 各系列で厳しい事業環境が継続。
電力関連 N A S電池は生産再開し営業損失が前期比半減、がいしも黒字化。
- 当期純利益：投資有価証券評価損、固定資産の減損損失を特別損失として計上。
N A S電池安全対策費用を計上した前期比では大幅改善。

売上高

営業利益

(億円)

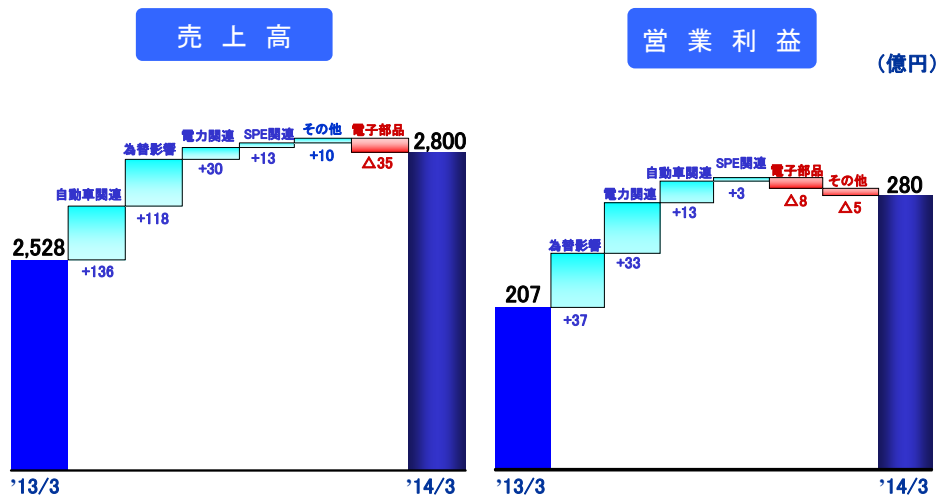


	'12/3	'13/3
為替レート	80円 /USD 111円 /EUR	83円 /USD 108円 /EUR

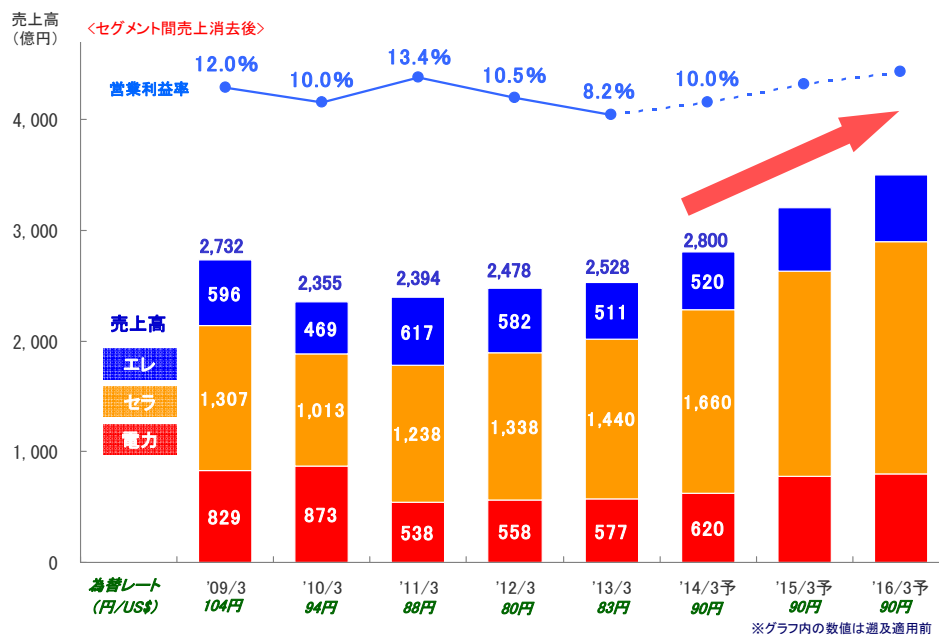
(億円)	13年3月期	14年3月期	前期比
売上高	2,528	2,800	+11%
営業利益	207	280	+35%
経常利益	220	290	+32%
当期純利益	114	220	+93%

前期比増収増益 当期純利益は大幅改善

- セラミックス 自動車関連製品は需要堅調。円安も加わり増益。
- 電力関連 がいは中国市場での低迷続く。
NAS電池は海外案件の出荷を見込み、営業損失は大幅に縮小。
- エレクトロニクス 金属・半導体製造装置用セラミックスは市況回復基調。
電子部品は需要減少し続落。



為替レート	'13/3	'14/3
	83円 / USD	90円 / USD
	108円 / EUR	120円 / EUR



新製品・新規事業創出に取り組む

- ▶ ウェハー新製品の早期事業化
- ▶ 新製品探索強化

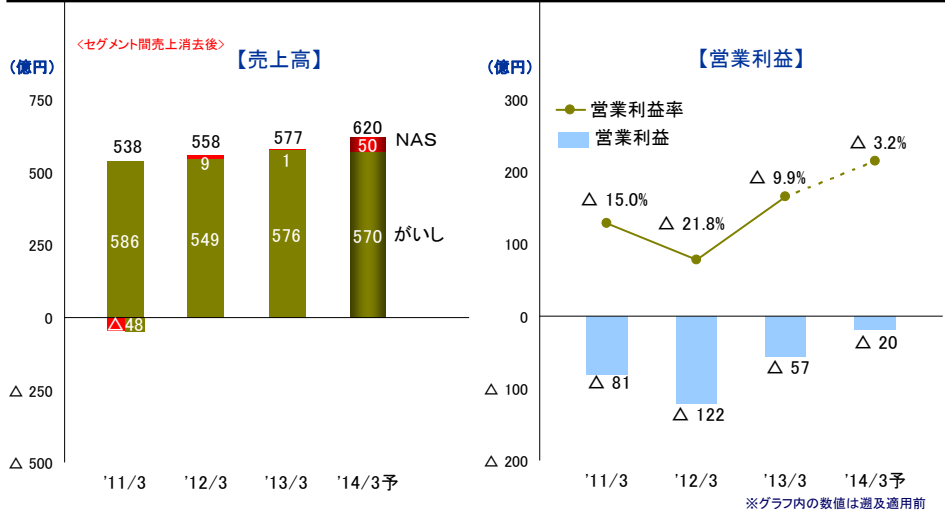
既存事業の収益性を強化する

- ▶ 赤字事業の黒字化 (NAS、電子部品)
- ▶ 強い事業の更なる強化 (ハニカム、DPF)

ムダの徹底的な排除 ～筋肉質な事業体質へ

- ▶ 資産の圧縮 (在庫の削減、投資のミニマム化など)
- ▶ コストダウン (製造・間接部門)

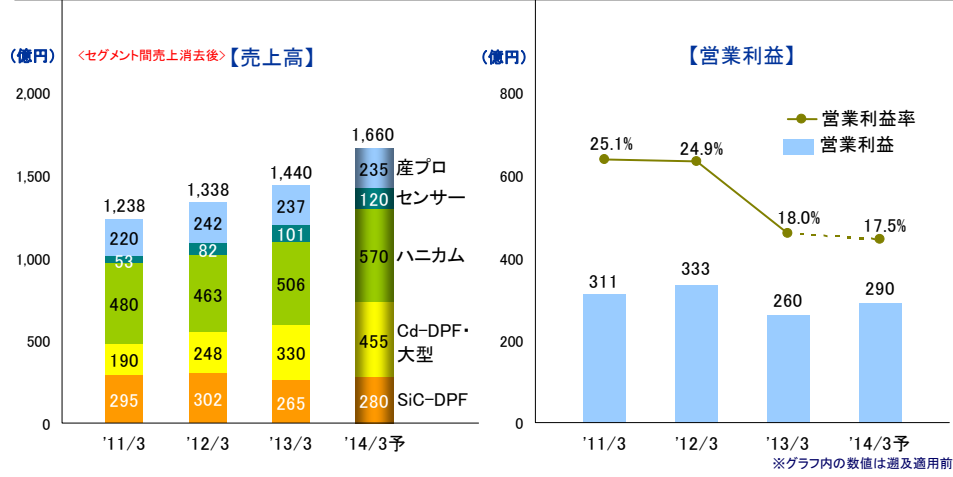
- がいし ・国内は取替需要漸増も電力会社の設備投資抑制は継続。海外は中国市場で競争激化、需要低調。
・国内取替需要の着実な取り込み、最適生産体制の構築、収益性の向上が課題。
- NAS ・安全対策を徹底し信頼を回復。海外で一部顕在化している系統対策需要を着実に取り込む。



- テルナ社(伊大手電力会社)と基本契約に合意(最大7万kW)
- アブダビ水利電力庁と契約改定(30万kW⇒6万kW)

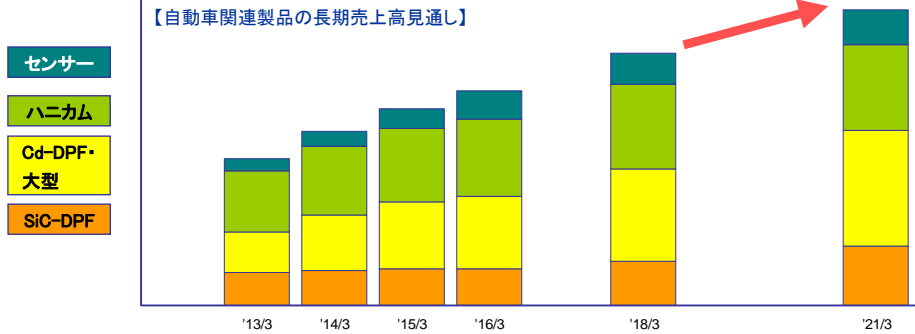
今後期待する市場	ターゲット	用途	
海外	欧州	送電、配電会社	系統安定化
	中東	電力会社	発電設備の効率運用
	その他	発電業者、送電会社	系統安定化
国内	電力会社	余剰電力吸収	
	発電事業者、自治体、電力会社	周波数調整、出力調整	
	大口需要家	負荷平準、非常用	

- 自動車関連 ・米国、新興国での乗用車販売堅調。排ガス規制強化のトレンドは継続、オフロードの需要も本格化。
 ・拡大するオフロード、新興国市場での受注を確実にし、グローバル最適生産体制を確立。
 ・排ガス規制対応における技術優位性の確立と収益性の向上が課題。
- 産業プロセス ・電子、電材分野での設備投資低調。新製品の投入と海外市場での事業拡大が課題。

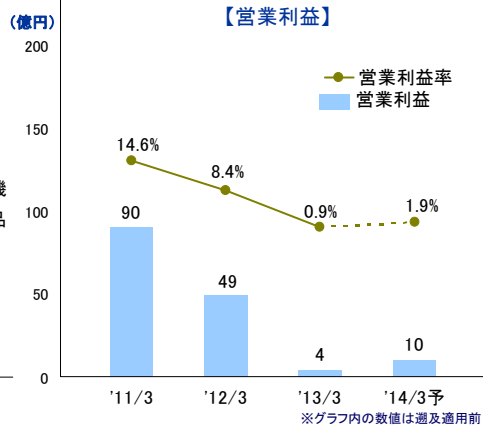
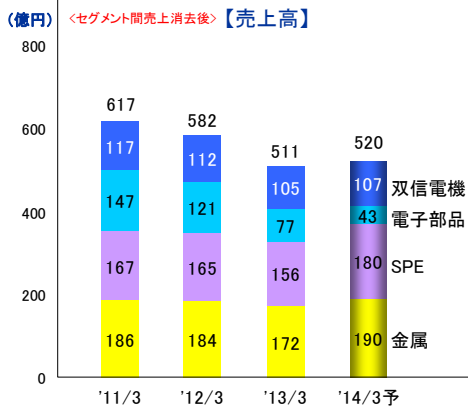


排ガス規制動向

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	
乗用車	日本	ポスト新長期						(ポストポスト新長期)		
	米国	Tier2 / Bin5						(Tier3)		
	欧州	Euro5						Euro6 (Euro7)		
	中国	Euro4						(Euro6)		
	インド	Euro4(13都市)、Euro3(その他)						Euro4		
トラック バス	日本	ポスト新長期						(ポストポスト新長期)		
	米国	US10						(US16)		
	欧州	Euro V						Euro VI (Euro VII)		
	中国	Euro III						Euro IV (Euro V)		
	インド	Euro IV(13都市)、Euro III(その他)						Euro IV		
Off-Road 建機・農耕機など	日本	JP11						JP14 (JP17)		
	米国	Tier4a						Tier4b (Tier5)		
	欧州	Step3						Step4 (Step4b)		

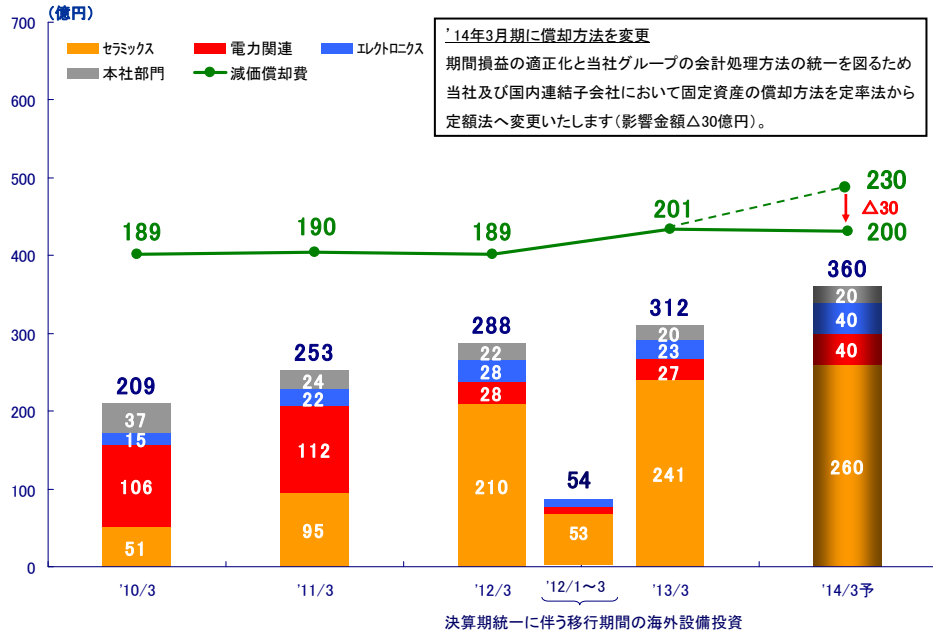


- 半導体製造装置用セラミックス(SPE)
 - ・緩やかな市況回復を想定。溶射技術活用やアルミナ静電チャックの拡販による事業拡大を目指す。
- ベリリウム銅展伸材(金属)
 - ・中国、インド市場が拡大。新規市場、新規用途による事業拡大が課題。
- 電子部品
 - ・I/P用部品はシェア低下による需要減少が継続。高付加価値な新製品の創出による再成長を目指す。



	複合ウエハー	窒化ガリウム(GaN)ウエハー
特徴	異なる材料のウエハーを貼り合わせることで、ノイズが少なく通話が途切れない高性能な通信機器部品を安価に作製することが可能	ウエハー全面にわたる低欠陥と無色透明を両立させることで、消費電力を50%以上削減できる高輝度LED光源の実現が可能
適用先	<ul style="list-style-type: none"> ・LTE対応SAWフィルター ・周波数切替IC ・基地局用信号増幅IC 【市場規模】 200億円(2017年)	<ul style="list-style-type: none"> ・超高輝度 青色・緑色LED素子 ・高出力 青色・緑色レーザー ・次世代パワー半導体 【市場規模】 220億円(2017年)
最終用途	スマートフォン タブレット端末	ビジネスプロジェクター ヘッドランプ 白物家電 電気自動車

設備投資・減価償却費

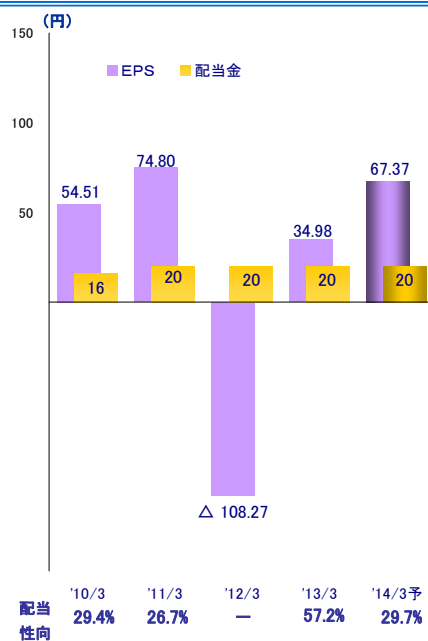
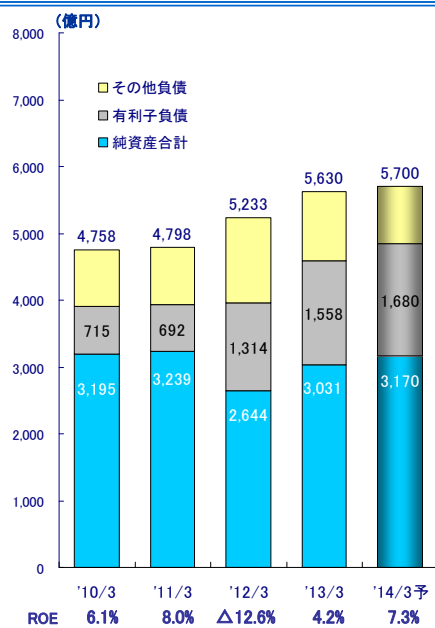


海外 主要製造拠点



(億円)

	'12/3	'13/3	'14/3予
営業活動によるキャッシュ・フロー	139	37	40
投資活動によるキャッシュ・フロー	△454	△6	△280
財務活動によるキャッシュ・フロー	566	124	60
現金及び現金同等物に係る換算差額	△29	29	-
現金及び現金同等物の増減額	221	184	△180
海外グループ会社決算期移行期間 ('12 / 1 ~ 3) の増減額	-	△7	-
現金及び現金同等物期末残高	851	1,028	848



事業別売上高(通期)

<セグメント間売上消去後>

(億円)

	11年3月期	12年3月期	13年3月期	14年3月期(予)
が い し	586	549	576	570
N A S	△48	9	1	50
電 力 関 連 合 計	538	558	577	620
ハ ニ カ ム	480	463	506	570
S i C - D P F	295	302	265	280
Cd-DPF・大型ハニカム	190	248	330	455
セ ン サ ー	53	82	101	120
産 業 プ ロ セ ス	220	242	237	235
セ ラ ミ ッ ク ス 合 計	1,238	1,338	1,440	1,660
金 属	186	184	172	190
半 導 体 製 造 装 置 セ ラ ミ ッ ク ス	167	165	156	180
電 子 部 品	147	121	77	43
双 信 電 機	117	112	105	107
エ レ ク ト ロ ニ ッ ク ス 合 計	617	582	511	520
全 社 合 計	2,394	2,478	2,528	2,800

※上表の数値は遡及適用前

事業別売上高(上期・下期)

<セグメント間売上消去後>

(億円)

	13年3月期		14年3月期(予)	
	上期	下期	上期	下期
が い し	267	309	290	280
N A S	0	1	0	50
電 力 関 連 合 計	267	310	290	330
ハ ニ カ ム	247	259	290	280
S i C - D P F	130	135	140	140
Cd-DPF・大型ハニカム	160	170	210	245
セ ン サ ー	47	54	55	65
産 業 プ ロ セ ス	101	136	105	130
セ ラ ミ ッ ク ス 合 計	685	755	800	860
金 属	87	85	95	95
半 導 体 製 造 装 置 セ ラ ミ ッ ク ス	80	76	90	90
電 子 部 品	45	32	23	20
双 信 電 機	53	52	52	55
エ レ ク ト ロ ニ ッ ク ス 合 計	265	246	260	260
全 社 合 計	1,217	1,311	1,350	1,450

本資料は当社の経営方針、計画、財務状況等の情報をご理解いただくことを目的としており、当社の株式の購入、売却など、投資を勧誘するものではありません。

本資料に記載されている業績目標及び数値等はいずれも、当社グループが現時点で入手可能な情報を基にした予想値であり、これらは経済環境、競争状況、需要動向などの不確実な要因の影響を受けます。

従って、実際の業績数値は、この配布資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知置きください。



〒467-8530 名古屋市瑞穂区須田町2-56

IR窓口：財務部 開示グループ

Tel. (052) 872-7212 Fax. (052) 872-7160

E-mail: ir-office@ngk.co.jp

Homepage: <http://www.ngk.co.jp>